

◎ 近代日本と館山（富崎）のあゆみ

（愛沢伸雄作成 2014 年 7 月）

1834	天保 5	布良村で神田吉右衛門出生。水野忠邦が老中になる（後に天保の改革）。
1837	天保 8	布良村で小谷治助出生。アメリカ船モリソン号浦賀に入港し、浦賀奉行が砲撃。
1842	天保 13	曲亭馬琴（滝沢馬琴）『南総里見八犬伝』（1814 年刊行）が全 98 巻 106 冊として完結。
1843	天保 14	加賀藩士の子として関澤明清出生。阿部正弘が老中になる（対外政策の転換のため開明的な人材登用）。
1848	嘉永元	松岡村で福原有信出生。相浜村で石井嘉右衛門出生。
1853	嘉永 6	アメリカ東インド艦隊（司令長官ペリー）が浦賀に来航、久里浜で大統領フィルモアの国書提出。 江戸湾・房総側の防備に岡山藩が命ぜられ、海岸線の領地（布良など）に砲台が設置される。
1854	安政元	布良村で満井武平出生。ペリー再来し日米和親条約締結。
1859	安政 6	南条村で小原金治出生。横浜・長崎・函館を開港。
1860	万延元	勝安房守義邦（海舟）ら咸臨丸でアメリカに向かう。
1864	元治元	布良村で小谷治助の長男、小谷喜録（幼名市松）出生。四国連合艦隊、下関砲撃。
1866	慶應 2	幕府は、英・米・仏・蘭の4カ国と「改税約書」を調印し、8カ所の灯台設置を約束。
1867	慶應 3	勝安房守義邦（海舟）、イギリス公使パークスらとともに房総に設置する灯台建設地を検分のため 幕府海軍の富士山艦で館山へ（相浜村の石井嘉右衛門宅に宿泊か？）。
1868	明治元	明治維新（戊辰戦争勃発）。幕府海軍副総裁榎本武揚らが館山湾に艦船を停泊。 小谷治助、漁師頭（後の漁業取締人）に選任。
1869	明治 2	フランス人技師ヴェルニーらによって日本最初の洋式灯台観音崎灯台設置。 2 番目も同じくヴェルニーらにより房州白浜に野島崎灯台設置。
1872	明治 5	関澤明清、ウィーン万国博覧会に派遣。福原有信、銀座に洋風調剤薬局「資生堂」創業。
1873	明治 6	千葉県が置かれ、県庁を千葉町に開設。福原有信を支援する松本良順、初代陸軍軍医総監となる。
1877	明治 10	東京・上野で第1回内国勸業博覧会開催。（1903 年まで5回開催）
1878	明治 11	東京霊岸島と館山間に汽船就航（5時間）。増田萬吉、森精吉郎らと根本村沖で潜水器による採鮑実験。 浅井忠らが房総写生旅行。
1880	明治 13	東京湾要塞建設開始（1932 年竣工）。小谷喜録、布良小学校を卒業。
1882	明治 15	青木繁、福岡県久留米に出生。関澤明清、大日本水産会設立に関わる。
1883	明治 16	自由民権運動が活発におこなわれ、北条村では満井武平や小原金治が民権派演説会。
1884	明治 17	小谷治助、布良村村会議員に選出。小谷喜録、前年に地元の石井定吉から算術・漢学を修業して この年に県北に出向き、千葉師範学校教員の手嶋春治・小池民治から教育学などを学ぶ。
1887	明治 20	関澤明清、アメリカ式捕鯨法を改良して実験を行う。
1888	明治 21	小谷喜録が帰村して布良尋常小学校の教員（授業生）となる。福原有信、帝国生命保険会社設立。 関澤明清、大倉喜八郎・渋沢栄一らの出資を得て、豊津村に日本水産会社設立。
1889	明治 22	関澤明清、大日本水産会の水産伝習所を設立。布良村と相浜村が合併し富崎村になる。 神田吉右衛門、富崎村の船大工豊崎吉太郎に依頼し改良漁船を建造させ、耐久試験を実施。 布良の大火で小谷治助・喜録宅など 74 軒が焼失。東京湾汽船会社設立。大日本帝国憲法公布
1890	明治 23	水産伝習所生徒が実習で布良の小谷家を訪問。引率教師内村鑑三が神田吉右衛門と懇談し、思想的な 影響を受ける。伝習所所長関澤明清、小谷家に礼状と『日本重要水産動植物之図』贈呈。 満井武平・小原金治が千葉県会議員に初当選。第1回衆議院議員選挙実施。 小谷喜録が石井嘉右衛門の娘マスと結婚。小谷喜録、富崎村村会議員に選出。
1891	明治 24	館山町民有志が近代的病院設置を求め資金寄付を呼びかけ、安房郡長吉田謹爾に嘆願書を提出。 ベルツ博士の薫陶を受けた東京帝大医学部卒の川名博夫が館山病院初代院長に就任。 関澤明清、官吏を辞して館山に開澤水産製造所設立。捕鯨・遠洋漁業事を始める。
1892	明治 25	神田吉右衛門、富崎村長に就任（～1899 年）。
1893	明治 26	布良村のマグロ延縄船3隻行方不明となり、軍艦八重山の救援。 安房郡佐久間村出身の曾根静夫が大蔵省国債局長に就任し、戦費調達に貢献。
1894	明治 27	日清戦争。小原金治、第 4 回衆議院議員当選。 富崎村の船大工・豊崎政吉が改良漁船を建造。
1895	明治 28	小谷喜録、前年長女誕生したものゝ逝去。この年に次女種子出生（青木繁が小谷家逗留時に 10 歳）。 安房国水難救助会主事吉田謹爾（安房郡長）より福原有信と連携した生命保険事業の推奨。
1896	明治 29	小原金治や吉田謹爾、福原有信らが安房銀行を設立（千葉銀行の前身）。 富崎村で第1回水産談話会を開催し、遭難船の避難方法や遭難の原因を究明する。
1897	明治 30	関澤明清逝去（55 歳）。水産伝習所が官立水産講習所となる。安房水産会設立。 石井嘉右衛門、富崎村長に就任。第2回水産博覧会（神戸）で富崎村の船大工・豊崎政吉の マグロ延縄船雛型が宮内省御用品となり、翌年のノルウェー万国漁業博覧会に出品。 長尾村根本の小谷源之助・仲治郎兄弟らが渡米、モンレーで器械式潜水アワビ漁を始める。
1898	明治 31	館山病院院長川名博夫、福原有信の長女と結婚。
1899	明治 32	関澤の実弟鎬木余三男の呼びかけで、小原金治や吉田謹爾、神田吉右衛門らが房総遠洋漁業㈱設立。 館山町の町営公園（北下台）に関澤明清顕彰碑を建立。
1900	明治 33	青木繁、東京美術学校西洋画科選科に入学。房総遠洋漁業㈱、館山丸などで北洋漁場のオットセイ・ラッコ 猟を実施。富崎村で第3回水産談話会開催。布良は水産界で「マグロ延縄業の覇者」と称される。

1901	明治 34	千葉県立安房中学校創立(後の安房高)。水産講習所館山実習場が開設。官営八幡製鉄所高炉火入れ。
1902	明治 35	神田吉右衛門逝去(69 歳)。小谷喜録の父治助逝去(65 歳)。 富崎村のマグロ延縄船8隻遭難 51 名死亡。
1903	明治 36	石井嘉右衛門、帝国水難救済会布良救難所長に就任し、小谷喜録を看守長に任命。 青木繁、第8回白馬会展にて白馬賞を受賞。
1904	明治 37	日露戦争。青木繁、東京美術学校西洋画科選科卒業。 青木繁らが富崎村布良の小谷家に約 40 日間逗留。青木繁が『海の幸』を制作。 ロシアのウラジオ艦隊、房総半島沖に来る。帝国水難救助会布良救難所は艦隊の動きや砲声を打電。 第9回白馬会展が開催され、『海の幸』などを出品。
1905	明治 38	日本海海戦。青木繁と福田たね、西岬村伊戸の円光寺に逗留。板戸の焼絵制作。 日露講和条約調印。蒲原有明の詩集『春鳥集』に『海の幸』単色図版と青木原画・山本鼎刻『繡斧』掲載。 福田たね、幸彦を出産(後の蘭童)。中村彝、結核で北条町(館山市)に転地療養し、画家を志す。
1906	明治 39	青木繁、この頃『海の幸』左から6人目と7人目の人物に加筆。館山湾新井海岸に千葉県水産試験場開設。 館山湾(鏡ヶ浦)で第1回関東連合遊泳大会開催。カルフォルニア州議会が日本人移民制限を決議。
1907	明治 40	アメリカのダコダ号が白浜沖で座礁する。青木繁、東京府勸業博覧会に『わだつみのいろこの宮』を出品し、 三等賞牌を授与。山本鼎や森田恒友が美術文芸誌『方寸』創刊。青木繁、『方寸』5号にS. A生の名で 「斉東風語」と題して、『わだつみのいろこの宮』が三等賞であった審査の不正さを投稿。 青木繁、父の逝去にともない久留米に帰郷。『海の幸』は東京・本郷の下宿に保管か。
1909	明治 42	富崎村長満井武平らが新型帆船富崎丸を建造。吉田謹爾・正木貞蔵、里見氏墳墓の修理完工。 夏目漱石、朝日新聞に小説『それから』連載したなかで、展覧会の『わだつみのいろこの宮』のことを記す。
1910	明治 43	韓国併合。中村彝、布良で『海辺の村(白壁の家)』を制作、第4回文展で3等賞。多々羅義雄(16 歳)、佐賀 小城で青木繁に師事。倉田白羊、長尾村根本の小谷清三郎の娘英子(小谷源之助・仲治郎の妹)と結婚。
1911	明治 44	青木繁、肺結核のため逝去(28 歳)。倉田白羊や森田恒友ら芸術同人誌『方寸』で青木繁追悼を編集。 富崎村長満井武平逝去(57 歳)。石井嘉右衛門逝去(64 歳)。
1912	明治 45	上野の竹之台陳列館で「青木繁君遺作展覧会」開催。
1913	大正 2	神田吉右衛門の顕彰碑建立(富崎小学校正門横)。『海の幸』ほか遺作が遺族に返還。
1914	大正 3	第一次世界大戦。館山町と豊津村合併し新設の館山町になる。
1917	大正 6	ロシア革命勃発。倉田白羊、北条町に居住。
1919	大正 8	国鉄北条線開通、安房北条駅開業。西岬村に洲崎灯台が点灯する。
1920	大正 9	国際連盟発足。倉田白羊、安房郡内の小学校を中心に児童自由画教育の指導。
1921	大正 10	中村有楽(会長)らにより安房美術会が設立され、翌年に第1回美術展開催。
1922	大正 11	倉田白羊、山本鼎の要請で長野県上田に転居、日本農民美術研究所副所長となる。 多々羅義雄『房州布良ヲ寫ス』を制作。
1923	大正 12	関東大震災、館山町 99%壊滅、富崎村は津波被害を受けるものの死亡者 1 名。寺崎武男、館山に居住。
1924	大正 13	福原有信逝去(77 歳)。
1925	大正 14	『海の幸』など遺作 30 点を梅野満雄が遺族より購入。『青木繁画集』(政教社)の刊行。
1926	大正 15	小谷喜録逝去(62 歳)。
1930	昭和 5	横須賀・佐世保・霞ヶ浦・大村に続き、全国で5番目になる館山海軍航空隊(通称「館空」)開隊。
1933	昭和 8	北条町・館山町が合併し北条館山町となる。
1939	昭和 14	小原金治逝去(79 歳)。館山北条町・那古町・船形町が合併し館山市となる。第二次世界大戦。
1940	昭和 15	大阪で青木繁遺作展。『海の幸』ほかを石橋正二郎が購入。
1941	昭和 16	館山海軍砲術学校開校。対米英戦(ハワイ真珠湾攻撃)。
1945	昭和 20	戦艦ミズーリ号上で降伏文書調印。館山にアメリカ占領軍 3,600 名上陸、本土唯一「4 日間」の直接軍政。
1954	昭和 29	富崎村・西岬村・神戸村・豊房村・館野村・九重村が合併により館山市へ編入。
1961	昭和 36	青木繁没後 50 年。布良に館山ユースホステル建設。「海の幸」記念碑の募金開始(館山市長らが发起人)。
1962	昭和 37	布良の阿由戸浜に青木繁「海の幸」記念碑建立(生田勉設計)。
1967	昭和 42	青木繁『海の幸』が洋画では、初めて重要文化財に指定。
1998	平成 10	館山ユースホステル廃業。記念碑の解体問題が起きたが、住民運動により保存される。
2005	平成 17	富崎地区コミュニティ委員会を中心に「青木繁《海の幸》100 年から布良・相浜を見つめる集い」開催。 小谷家当主、小谷家住宅の保存に賛同を表明。
2008	平成 20	青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会(嶋田博信会長)設立。
2009	平成 21	小谷家住宅、館山市有形文化財に指定。国交省「新たな公」によるコミュニティ創生モデル事業に選定。
2010	平成 22	NPO法人青木繁「海の幸」会(大村智理事長)設立。
2011	平成 23	青木繁没後 100 年。福岡県久留米市のけしけし祭り(命日供養祭)に小谷家当主ら6名参加。 文化庁「文化遺産を活かした地域活性化」事業始まる(～2014 年)。青木繁《海の幸》フォーラム開催。
2012	平成 24	館山市ふるさと納税の「小谷家住宅の保存・活用」事業指定始まる。青木繁「海の幸」オマージュ展開催。
2013	平成 25	小谷家住宅四者協議会発足。
2014	平成 26	青木繁「海の幸」誕生の家・小谷家住宅の修復と公開に関する三者覚書調印。小谷家住宅2ヵ年修復事業 始まる。青木繁《海の幸》フォーラム開催。青木繁「海の幸」オマージュ展館山展に館山美術会が協賛出品。
2016	平成 28	青木繁「海の幸」誕生の家・小谷家住宅の一般公開(予定)。